

1956年

祝  
西暦1968年  
奥泉光氏  
誕生



1956年、三川町生まれ。国際基督教大学大学院修了。1986年「すばる」で小説家デビュー。1994年『石の来歴』で第110回芥川賞受賞。毎日出版文化賞、柴田錬三郎賞など数々の文学賞を受賞しています。

そして

# 昭和43年 三川町へ

全国的な高度経済成長も伴って、木造の両田川橋がコンクリート製となり、上水道が敷かれ、商工会や農協が発足するなど着々と都市化を進めてきた三川村。鶴岡市と酒田市の中間に位置することから昭和43（1968）年には村内に山形県消防学校が開校し、翌年には庄内支庁（現庄内総合支庁）も開庁しました。町制施行を望む声も高まり、地方自治法に定められた町としての条件も整っていたことから、昭和43年、三川村は庄内の中央にある自治体としての役割を将来に渡って担うべく三川町となりました。

町になって変わったことは？

↓町民主体の「地域づくり」が始まりました

新三川町は、町民が主役の町づくりを進めるため、町制スタートの翌年には、町内の全世帯（1824世帯）にアンケート調査「活力ある地域づくりに関する意識調査」を実施。72・8%という高い回収率となりました。

この調査を踏まえ、町は昭和47（1972）年に三川町振興計画を策定。この計画を基に、住民参加の活力ある地域づくりを進めていきました。

# 昭和50年代

町民をつなげる  
町のまつり、スタート

地域づくりのひとつが、まつりの開催です。その第1弾となった「夏まつり」は、昭和54（1979）年に農村環境改善センターのオープン記念として、三川町商工会主催で行われました。三川音頭や花火大会などとても盛り上がり、町内外はもとより国際交流の場にもなりました（平成16年に終了）。

昭和58（1983）年、「菜の花まつり」がスタート。昭和53年に町制10周年を記念して制定された町の花「菜の花」をアピールして、町の観光や産業振興につなげるのが目的でした。第1回は赤川河川敷の菜の花栽培地を会場に、菜の花観賞会や写生大会が行われ、写真撮影会では町内出身の女性たちが「菜の花むすめ」としてモデルとなりました。

ふるさとネットワーク

この頃、県外在住の三川町出身者との交流が進み、昭和59年に「広報みかわ県外版」を創刊。お米や地元の特産物を詰め込んだギフトセットを全国の希望者に届ける「おらほの米と味だより」事業が始まりました。翌年には首都圏で「望郷みかわ会」が、さらに翌年には「北海道みかわ会」が発足。ふるさと三川をつなぐネットワークが広がりました。

昭和30年代、酪農農家と養豚農家、激増！



1961年  
三川村商工会発足  
1963年  
村全域に水道が通る



1965年  
三川村合併10周年で  
村章を制定

1968年  
山形県消防学校開校

1964年  
新潟地震で  
被害甚大

1969年  
山形県庄内支庁開庁  
（現山形県庄内総合支庁）

1970年  
米の減反政策が開始

1973年

公設庄内青果物  
地方卸売市場が営業開始

MAP 31

1978年  
町の花「菜の花」制定  
町の木「けやき」制定

1979年  
三川町農村環境改善センター  
（現三川町公民館）完成

MAP 19

1980年

三川町商工会館完成  
町民グラウンド完成

MAP 19  
MAP 10

1981年

町民体育館完成

MAP 10

1982年

三川町役場新庁舎完成

MAP 19

1983年

菜の花まつり

初代  
菜の花むすめたち



現在もゴールデンウィークに開催。庄内一円のグルメが楽しめるキッチンカーが集合し、菜の花むすめ撮影会や子ども向けイベントを開催しています。



2018 菜の花写真コンテスト応募作品

1984年  
「おらほの米と味だより」  
発送スタート



菜の花むすめは  
2025年で  
第42代！



菜の花むすめは、三川町と庄内地方の観光大使として1年間さまざまなPR活動を行います。

高卒で仕事を始めた年に「社会勉強をしてこい」と会社から業務命令があり、菜の花むすめになりました。30年を経てまさか娘もなるとは思っていませんでした。お互い貴重な体験をさせていただいたと思います。（涼子）父から声がかかって、母と2代にわたって活動することができました。なかなか経験できることではないので、生涯忘れられない思い出になると思います。（りん）

1986年

中高生ボランティアサークル「来夢来人」活動スタート



広報みかわ（昭和61.6.15発行）より

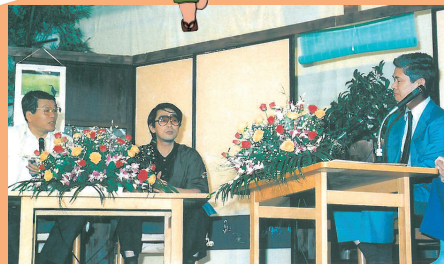
1986年

三川トピア創造委員会発足  
いろり火の里構想スタート

1987年

第1回全国方言大会開催

方言坊や誕生！



町民体育館で開催された第一回には、タレントの伊奈かついさんや NHK アナウンサーの相川浩さんらがゲストとして参加。三川町を含む7県の参加者がお国ことばを披露しました。



第4代三川トピア創造委員会委員長 菅原 雄一 さん

# 昭和60年代

画期的な町おこしイベント  
「全国方言大会」開始

昭和61（1986）年、「今後の町づくりに若者の意見を反映したい」という原田二郎町長の依頼を受け、町内の若者たちが「三川トピア創造委員会」を発足。意見交換を重ねて「いろり火の里構想」を立ち上げ、翌62年、「方言で町おこしを」を合言葉にした第1回全国方言大会を開催しました。

全国各地のお国ことばを披露するこの大会は、「方言を通して忘れられつつあるふるさとの文化について考える契機となった異色のイベント」として高く評価され、全国的な注目を集めました。平成15（2003）年まで毎年開催され、この大会を機に始まった首都圏の大学による方言調査が続くなど、その影響は今に続いています。

ことの始まりは1985年11月、海浜青年の家で開催された研修会に参加して、他町村の仲間がいろいろな活動をしていることを知ったことでした。私たちが負けじと、毎週土曜日福祉センターで子どもたちの遊びの世話を始めました。後輩のみなさん！あなたも楽しい夢を見れるよう「来夢来人」にぜひどうぞ！

広報みかわ（昭和61.6.15発行）より

今も続いているよ



押切小学校  
新校舎完成

MAP 23

1989年  
三川町に温泉が湧出



なの花温泉  
田田オープン

MAP 9

1991年

宿泊研修施設  
昔屋オープン

MAP 9



1994年  
テネシー州  
マクミンビル市と友好都市へ



1992年  
べにばな国体成年男子二部  
サッカー会場になる

MAP 30

1996年  
おぼこ大橋完成

1998年

MAP 13

山形県防災学習館開館

1997年  
三川町観光協会発足  
横山小学校  
新校舎完成

MAP 4



1999年

ショッピングセンター  
ラコス開店

MAP 9

アトク先生の館開館

MAP 18

MAP 9

2000年  
いろり火の里オープン

MAP 9

道の駅庄内みかわオープン

2001年

屋内多目的運動施設  
「アスレなの花」  
オープン

MAP 12



人工芝が敷設されたアリーナのほか、トレーニングルームやパークゴルフ場を併設した全天候型のスポーツ施設です。

# 平成前半

ふるさと創生事業スタート  
「いろり火の里構想」実現へ

平成元（1989）年、全国の自治体に1億円が交付される「ふるさと創生事業」が始まりました。三川町では町民から170余りのアイデアを募集し、いろり火の里構想のシンボルとして平成2年に「なの花温泉田田」を建設。翌年には宿泊研修施設「昔屋」も増設しました。

折しも同じ年、以前から計画されてきた庄内空港が三川町の隣接地に開港。酒田と鶴岡を結ぶ三川バイパスの工事もあり、平成8年には部分的に供用が開始されました。

この状況を受け平成9年、三川町は観光協会を発足。庄内だけでなく県外からの交流人口の増加も目指し、田田の隣接地を大規模に整理し、平成12年、複合施設「いろり火の里」と道の駅「庄内みかわ」をオープンしました。昭和61年に生まれ、足掛け14年をかけた「いろり火の里構想」の完成でした。



現イオンモール三川オープン

2003年

国道7号三川バイパス  
全線開通

2005年

MAP 27  
アクロスプラザ  
三川オープン

MAP 28  
ル・パーク  
みかわオープン

2006年

MAP 28  
産直みかわ開店

2008年

みかわまち納涼祭  
スタート

2004年

田田大橋完成

東郷小学校新校舎完成

MAP 22

MAP 16

2001年  
みかわ保育園・幼稚園開園

MAP 24

# 平成後半

平成の大合併の激動を経て自立の道へ

地方分権が求められる中、平成11（1999）年に「平成の大合併」が全国的に始まると、そのうねりは庄内にも押し寄せ、平成14年、庄内南部の7市町村（三川町、鶴岡市、藤島町、羽黒町、榑引町、温海町、朝日村）による合併協議会が設立されました。

以後、三川町は庄内南部合併に向けて動いたものの、合併に対する賛成・反対の議論が大きくなり、町を二分する運動に。町議選挙、町長選挙を経て、最終的には自立の道を歩むことになりました。

町が大きく揺れた合併問題でしたが、結果的に町民みんながこれからの町のあり方について真剣に考える出来事となりました。

MAP 11

三川中学校新校舎完成

2011年3月  
東日本大震災

2017年  
田から（宝）もの一品開発事業で町オリジナル日本酒づくりスタート

2018年  
日本酒「穂のかおり」完成



右の瓶は2021年発売のリニューアル版



みかわん誕生！

2019年  
「イ号彌太右衛門」完成

2020年  
新型コロナウイルス感染症でロックダウン

2022年  
日本酒「IGO」完成



# 令和時代

利便性が高く、暮らしやすい、おらほの町

平成に入り、交通の利便性が増した三川町は、お城のようになった横山小学校近くや、大型ショッピングセンターを中心とする一大商業エリア周辺に住宅地ができるなど、新しいまちができて近隣市町から移住する人も増えました。

令和時代に入ってから、子育て交流施設「テオトル」とふれあい広場「パルク赤川」が誕生し、

三川町。なかなかなるじゃん、

2020年



MAP 20  
子育て交流施設「テオトル」オープン



子育て支援機能、学童保育機能、地域交流機能を有する3つのエリアを併せた複合施設。子どもからお年寄りまで集まる場所です。

MAP 17  
2022年

赤川河川緑地ふれあい広場「パルク赤川」完成



赤川河川敷に芋煮会などができる休憩広場、自由に利用できるグラウンドなどが整備されました！



令和の三川は  
むっとなつていけるかな

